

社会主義世界の変貌とアジア

東京外国語大学教授 中 嶋 嶺 雄

最近の国際社会の大きな変動、その根本の潮流は何かを私の専門とする中国あるいは社会主義社会の変動に触れ、お話ししてみたい。

昨年から今年までに起った出来事を「89～90年革命」と位置づけたいが、それは、極めて同時進行的で根本的な歴史の再編成ではないかと考える。今回の事態は、20世紀になってからの社会主義革命に対する「カウンター・リヴィジョン(反・革命)」となっている。この言葉は極めて鮮烈で、しかも21世紀を導く一つの方向性を示し、また、20世紀の一つの歴史の総括ではないかと思えます。

20世紀を何で象徴させるか。一つはやはり革命だと思う。西欧で最も遅れたロシアで革命が起り、四半世紀後に中国に革命が起きる。この革命の赤い一本の糸はさらに南にのびヴェトナムを中心とするインドシナ革命となる。ここまでが、キューバ革命などと共に、新しい第二次大戦後の革命で、この勢いでは第三世界は総て社会主義社会になるとさえ言われた。しかし、その後の事態を見ると、中国では、文化大革命や昨年天安門事件に至るまで、大変な悲劇が起っている。日中の15年戦争の犠牲者よりはるかに多くの犠牲者が出ています。文化大革命だけで2000万、50年代の大躍進政策でも2000万の人が死んだと言われる。犠牲が多くても経済的に成功すれば救われるが、現実にはひどい貧困と硬直化の中に落込んでいる。例えば、中国の一人当りのGNPは300～350ドルで、台湾は8500ドル。5年前は中国と台湾の差は15倍位だったのが今や30倍位になっている。平等で豊かな社会、資本主義の桎梏からの解放が社会主義の目的であったはずだが、今や社会主義社会は自らの正統性の根拠を失いつつあると見ていいわけで、昨年から今年にかけての歴史的変化は、20世紀の一つのシンボルであった革命の終焉であり、アジアにもう革命は起らないであろう。

20世紀のもう一つのシンボルは戦争だと思う。昨年末の米ソの和解は一時的なものでなく、もう大国間の戦争は起らないだろう。それは戦争のコストがすごく、軽武装国家の日本やアジアNIE Sの方がうまくやっていくという認識があるからだと思う。たしかに、米ソの和解でそれまで閉じ込められてきた問題が一挙に噴出し、イラクの最近の事件、ソ連の民族問題等ますます大きくなって

くる。けれど大きな戦争がもう起きないであろうということは、やはり20世紀の総括である。去年から今年にかけて起っていることは、米ソ間の和解があって初めて可能になったことで、冷戦下では起り得なかったことです。

中国で昨年4月中旬から起った民主化運動は、中国社会にとって極めて画期的なもので、ある意味で五・四運動を凌ぐ歴史的意味を持ったと考える。それは、中国には伝統的に肯定的権力構造と私が言う独裁者を必要とする体質があり、社会主義になっても、毛沢東や鄧小平のような人が出て結局は独裁者となる。これに対し、学生や知識人が初めて人治ではなく法治ということを言い出した。これは画期的な事だと思う。中国には「天子法を犯すこと、民と同罪」という言葉があり、権利を保護する法という概念が全くない。法はなるべく簡便な方が、自分の思うように政治が出来るというわけです。中国人の自然体は法とか規則を全く無視するという伝統が今も生きており、学生・知識人が「法治」ということを言った。これが、画期的であったわけです。

ゴルバチョフ訪中のとき、国家主席楊尚昆、首相李鵬、書記長趙紫陽が居るのに鄧小平が中ソ和解の宣言など総てを牛耳った。それを見た学生が拍手喝采すると思いきや逆に反対した。ルーマニアのチャウシェスクが集会で演説したときの民衆の反応と同じことが起った。鄧小平にとって一番痛い所をつかれた。(このあと講演は、5月16日の趙紫陽・ゴルバチョフ会談のテレビ放送での最初の10分間の「中国では総ての重要事項の決定は、鄧小平同志に委ねられています。このニュース《中国では消息という》は、あなたに初めて打ち明けるものです。」という趙紫陽の言葉を引用され、趙紫陽失脚・天安門事件の様子が生々しく語られた。)

さて、この中国の悲劇が世界に与えた、特に社会主義諸国に与えたインパクトはものすごかったと思います。昨年東独のフンボルト大学で中国問題のセミナーを行ったが、東独の知識人は真剣に天安門事件のことを考えていた。ホーネッカーは天安門の悲劇を見て自らの城を開けわたし、カール・マルクス広場は第二の天安門とはならなかったのです。チェコ・ポーランド・ハンガリーは中国の民主化運動に拍手を送っていた。中国の悲劇が東欧を救ったと言っても過言ではありません。ところが、ルーマニアのチャウシェスクは、この事態の深刻さが分からなかった。結局彼は自らの墓穴を掘ることになったのです。(講演はこのあと、中国・朝鮮とヨーロッパとは違い、アジアは簡単にヨーロッパ共通の家が出来るような基盤がないことを指摘され、ウエストフアリア条

約以降近代ヨーロッパの国際関係上のルールが形成され、ウィーン会議もそうしたルールが基盤にあり、今回の東西ドイツの統一・ヨーロッパとソ連の関係が調整されたのもそうした基盤があったからであり、アジアにはそういうものがないことに言及されたあと、社会主義諸国の実情について話された。）

こうした東欧の変化が、ソ連のベレストロイカやグラスノスチをさらに促進していることは否めない事実です。

モンゴルもソ連のベレストロイカに刺激され、大きく変わってきました。つい最近迄、科学アカデミーの前にスターリン像が立っていたモンゴルが急激に変化を始め、この7月には自由な選挙をやった。ジンギスカンも大いに語られるようになりました。

中国の悲劇が東欧を救い、東欧がソ連のベレストロイカを進め、その余波がアジアにまで及んで来た。そうすると、あとまだ社会主義が頑張っているのは北朝鮮・中国とキューバがある。そのキューバもカストロ政権の共産党の人気がなくなり、複数政党制をやり始めようとしている。私は、キューバも変わっていく方向にあると思います。

この5月、平壤に1週間行って来たが、ものすごい独裁体制で一糸乱れぬ統一を保っている。学生と話しても、中国でのような、共産党はダメだ、鄧小平はダメだという声はいっさい聞かれない。北朝鮮は一種の宗教国家であり、儒教的権威主義体制、まさに儒教国家なんです。だが、この国も、いま行き詰ってきています。（講演ではこのあと、北朝鮮の台湾化、つまり、台湾のように独裁体制を利用して産業構造の転換を図り、その後民主化へという道を北朝鮮の選択として有り得ることを指摘された。）いずれにしても、中国、北朝鮮の革命第一世代は間もなく退場する。このあと、10年持つかどうか、多分持たないであろう。21世紀迄今の体制は中国でも北朝鮮でも続かないだろう。

そうすると、「1989・90年革命」は、まさに、輝けるカウンター・リヴォリューションとして、21世紀を導く方向を示すのではないか、それが昨年から今年にかけて起ったことの実態であり、私どもはきちんと見据えていかなければいけないだろう。以上のように考えるわけでありませう。

今日の講演会は、閲歴研大会の講演会も兼ね、7月11日、都立富士高の大会議室で行なわれた。高名な中嶋先生の講演で、しかも時宜を得たタイトルということもあり、都外からの聴衆も多く盛況の内に終了した。

文責 都立富士高校 宇野沢伸和

都 歴 研 紀 要

第 27 号

1990

卷 頭 言	会長 林 道 卯一郎… 1
研究と実践	
小学校歴史学習における体験的な学習の充実 — 6年「天下統一」の学習を通して —	吉 岡 博 明… 2
地域教材を生かした歴史学習 — 体験学習, 生徒の発表活動を中心にして —	清 水 裕 一… 8
幕末動乱期の主役たち	外 山 至 生… 14
「ビデオ時代」にあつてスライド教材を考える — 自作スライド「ナポレオン」を事例に —	中 山 憲 正… 19
現代高校生は, ルイ16世裁判・死刑判決を どうとらえたか — 都立高校3校での試み	戸 谷 由 弥 子 村 松 明… 27 小 暮 通 夫
平成2年度「社会科基礎テスト歴史の部」結果報告	都定通研社会部学 力評価研究グループ… 37
特別寄稿	
大学入試問題の検討	安 蔵 復 也… 39
NIE(新聞教材)委員会について	新 目 隆… 48
見学・行事	
夏季巡検: 吉備路・塩飽諸島・讃岐	中 家 健… 49
秋季巡検: 茨城・水戸方面	岩 本 一 美… 55
春季巡検: 御茶の水から本郷・駒込へ	鈴 木 荘 一… 59
定通研社会部巡検	都定通研社会部巡検委員会… 63
講演紹介	
後北条時代の東京	久 保 田 昌 希… 66
社会主義世界の変貌とアジア	中 嶋 嶺 雄… 69
事務局報告	
行事報告・役員名簿・規約	72

東京都歴史教育研究会